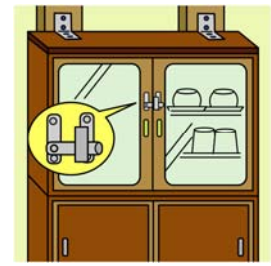


地震編



■家の中の安全対策

1.【家の中に逃げ場としての安全な場所をつくる】

部屋が幾つもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えする。

2.【寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない】

就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。

3.【家具の転倒や落下を防ぐ】

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱に寄りかかるように固定する。また金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。

4.【安全に避難できるように、出入口や通路にはものを置かない】

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに出入口をふさいでしまうことも。

■家具の転倒・落下を防ぐポイント

【タンス・本棚】 L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。

【冷蔵庫】 2ドアの場合は、扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。

【食器棚】 L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下に、軽い食器は上のほうに置く。扉が開かないように止め金具をつける。

【テレビ】 できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける。)また、テレビの上には水槽や金魚鉢を置かない。

【照明器具】 チェーンと金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。

【ピアノ】 本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。

地震から身を守る心得10か条

地震が起きたらどうすべきか。地震発生時の行動の基準を身に付けておかないと、被害をむやみに拡大することになります。冷静な行動を心掛けましょう。



1【まずわが身の安全を確保】

何よりも大切なのは命。地震が起きたら、まず第一に身の安全を確保する。

6【狭い道路、塀ぎわ、がけや川べりに近寄らない】

ブロック塀・門柱・自動販売機などは倒れやすいので要注意。

2【すばやく火の始末

あわてず、騒がず冷静に】

「火を消せ！」みんなで声をかけ合い、調理器具や暖房器具などの火を確実に消す。

7【山崩れ、がけ崩れ、津波に注意する】

山間部や海岸地帯で地震を感じたら、早めの避難態勢を。

3【非常脱出口を確認する】

とくに鉄筋コンクリートの建物内にいるときは、閉めたままだと建物がゆがみ、出入口が開かなくなることもある。

8【避難は徒歩で、荷物は最小限にする】

指定された避難場所に徒歩で避難を。車は使わない。

4【火が出たらまず消火を】

「火事だ！」と大声で叫び、隣近所にも協力を求め初期消火に努める。

9【みんなが協力し合って応急救護】

お年寄りや身体の不自由な人、ケガ人などに声をかけ、みんなで助け合う。

5【外に逃げるときはあわてずに】

外に逃げるときは、瓦やガラスなどの落下物に注意し、落ち着いた行動を。

10【正しい情報をつかみ、余震を恐れるな】

うわさやデマに振り回されない。テレビやラジオで正しい情報を。